

5. - 26) 検定結果 特殊鶏交雑

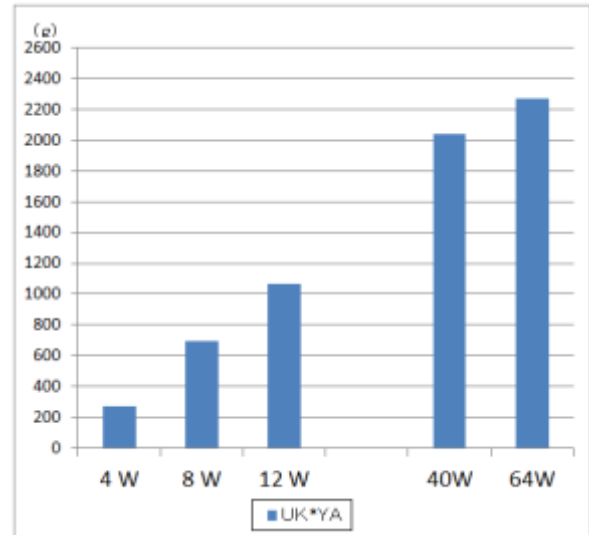
UK×YA (烏骨鶏×RIR) コマーシャル卵用及び卵肉兼用タイプ (CM♀) 31年度

(1) 体重 (表3、図1参照)

体重は、4週齢・8週齢を10%抽出(10羽)、12週齢を全羽数、40週齢・64週齢を60%抽出(30羽)として測定した。

成鶏期の40週齢では2.04kgとなり、検定終了時の64週齢では、2.27kgとなった。

	4週齢	8週齢	12週齢	40週齢	64週齢
	26日齢	54日齢	84日齢	280日齢	448日齢
平均体重	270	696	1,063	2,038	2,268
最大	282	766	1,188	2,368	2,647
最小	257	598	909	1,561	1,666
標準偏差	8.0	50.1	71.6	194.1	223.8
変動係数	2.97	7.19	6.73	9.52	9.86
数	10	10	50	30	30



※ 表3における12週齢の全数測定において、
発育不良等により極端に低い体重のものは、
異常値として集計から除外した。

(参考) 純粋種の平均体重 (31年鶏: 40W雌)

- ・ UK : 1,435 g (岡崎牧場系)
- ・ YA : 1,960 g (岡崎牧場系)

(表3・図1) 平均体重の推移

(2) 羽色・外貌特徴

ア 0週齢時 (羽色のみ(20羽抽出)) (図2参照)

羽色は、その組合せの中で多く占めている羽色タイプを順に、羽数をカウントすることとした。

「UK×YA」の羽色は、全て(20羽中20羽)が羽色タイプI (淡褐色斑)であった。



(図2) <UK×YA>の羽色

イ 12 週齢時（羽色・外貌特徴：全羽数）（図 3 参照）

「UK×YA」は、全てが羽色タイプ I（濃褐色）であった。外貌の特徴は、何れも体型が卵用種型（地鶏型）、冠はバラ冠・単冠・クルミ冠・豆冠が見られ、全てに毛冠があった。耳朶色は濃藍色、脚色は鉛色（一部は薄い鉛色が混在）、趾は 84%（50 羽中 42 羽）が多趾（両脚 10 本）、16%（50 羽中 8 羽）が趾欠落（両脚 8～9 本）であった。

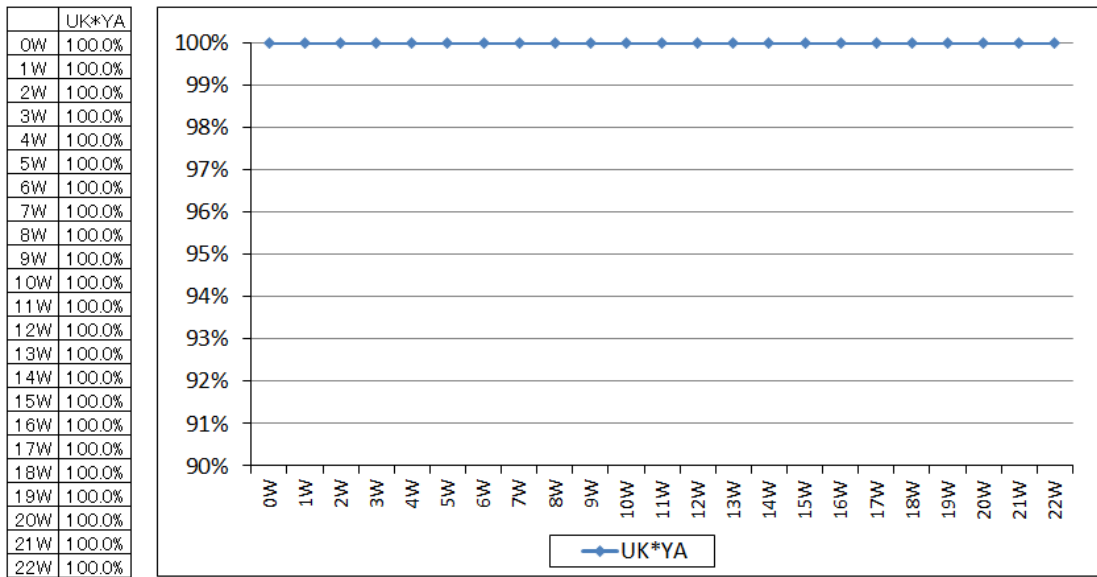


(図 3) <UK×YA> 羽色タイプ I の羽色・外貌の特徴

(3) 育成率・生存率

ア 育成率 (表4・図4参照)

期間中のへい死・淘汰はなく、育成率は100%であった。

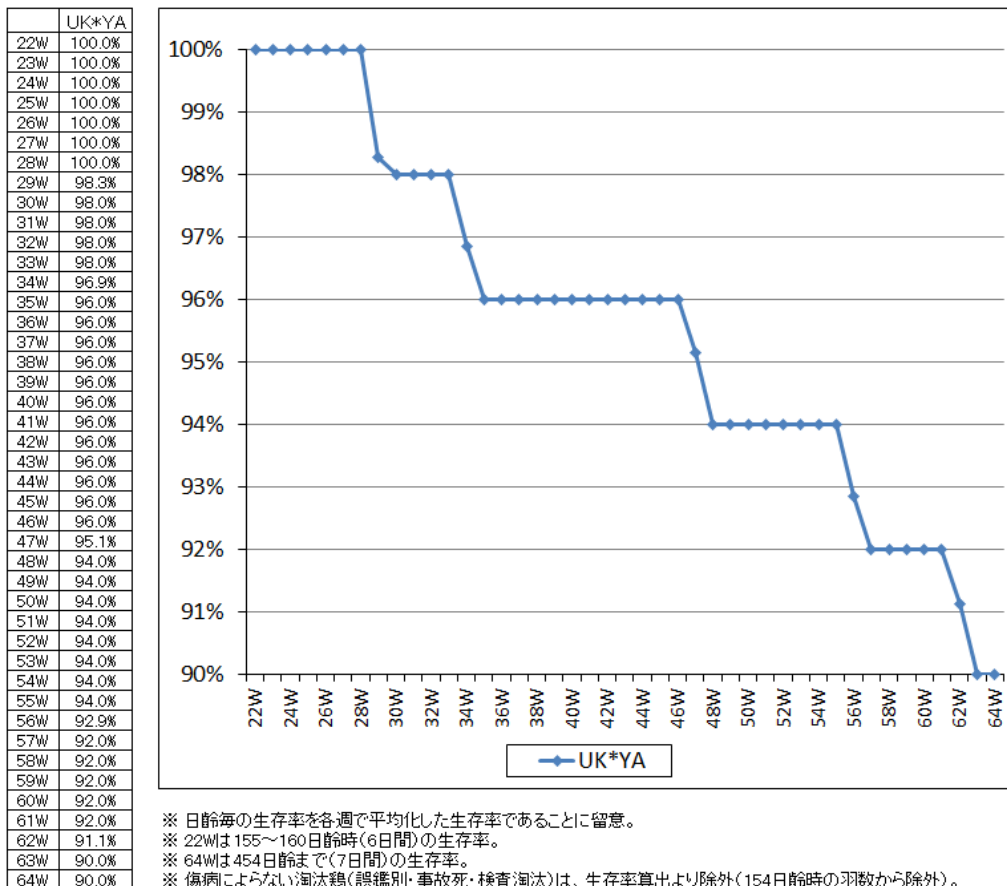


- ※ 日齢毎の育成率を各週で平均化した育成率。
- ※ 22Wは154日齢時(1日間)の育成率。
- ※ 傷病によらない淘汰鶏(誤鑑別・事故死・検査淘汰等)は、育成率算出より除外(え付羽数から除外)。

(表4・図4) 育成率の推移

イ 生存率 (表5・図5参照)

29週齢から56週齢にかけて消化器病による4羽のへい死、62週齢で削そうによる1羽の淘汰により、検定終了時の64週齢(454日齢)までの生存率は90.0%であった。



- ※ 日齢毎の生存率を各週で平均化した生存率であることに留意。
- ※ 22Wは155~160日齢時(6日間)の生存率。
- ※ 64Wは454日齢まで(7日間)の生存率。
- ※ 傷病によらない淘汰鶏(誤鑑別・事故死・検査淘汰)は、生存率算出より除外(154日齢時の羽数から除外)。

(表5・図5) 生存率の推移

(4) へい死・淘汰要因 (表 6 参照)

脂肪肝出血症候群の発生(5羽中4羽)が目立ち、この他に削そうが発生し、検定終了時の454日齢までのへい死・淘汰率は10.0%となった。

(表 6) へい死・淘汰率 (日齢/羽数)

区 分	UK×YA
脂肪肝出血症候群	8.0% (204/4羽)
削そう(消耗死)	2.0% (438/1羽)
計	10.0% (5羽)

※ 特殊鶏交雑は、64W(454日齢:R2/6/28)までのデータとした。

※ へい死・淘汰率は、え付羽数から誤鑑別などを除いたものを補正え付羽数とし、その羽数に対する率とした。

(5) 産卵性能

ア 各性能 (表 7 参照)

50%産卵日齢は、140日齢。

ピーク産卵率は、96.3%。

168～454日齢の期間産卵率は、80.9%。

(表 7) 各性能

区 分	50%産卵日齢	ピーク産卵率	期間産卵率
UK×YA	140日齢	96.3%	80.9%
	(139日齢: 30.0%) (140日齢: 50.0%) (141日齢: 54.0%)	(180日齢: 96.5%) (181日齢: 96.5%) (182日齢: 96.0%) 平均 96.3%	期間産卵個数 : 11,076個 期間延べ羽数 : 13,686羽 期間産卵率 : 80.9%

※ 「50%産卵日齢」は、産卵率が50%に達した最初の日齢

※ 「ピーク産卵率」は、産卵ピーク時3日間の平均産卵率

※ 「期間産卵率」は、168～454日齢の期間産卵個数/期間延べ羽数

(表 8) <参考> 純粋種の各性能 (31年鶏: 岡崎牧場系)

区 分	50%産卵日齢	ピーク産卵率	期間産卵率
UK純粋種	169日齢	80.0%	64.5%
YA純粋種	146日齢	97.2%	95.6%

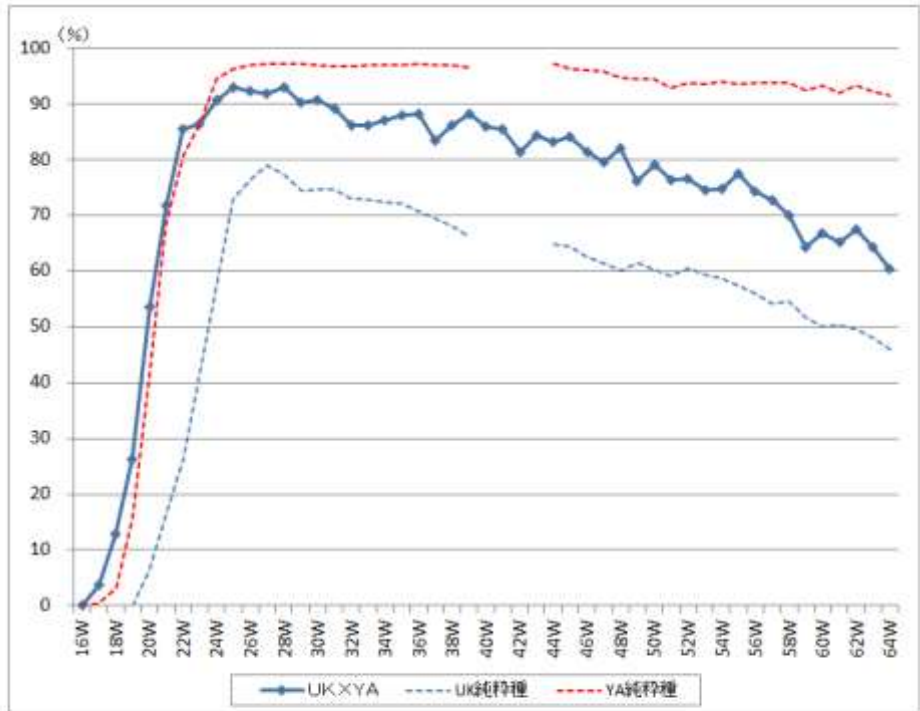
※ 「期間産卵率」は、168～454日齢の期間産卵個数/期間延べ羽数

イ 週齢毎産卵率（表9・図6参照）

17週齢から産卵を開始、19週齢から一気に上昇し、25週齢で産卵ピークを迎えた。その後、59週齢で若干低下したものの、40～58週齢にかけて70～86%を維持し、64週齢で60.3%となった。

（※ 純粋種のUK及びYAと比較し、YAには及ばないものの、UKよりも初産が3週間程度早い上、産卵ピークが非常に高く、期間産卵率全体が押し上げられ、産卵性能が大きく向上した。）

	UK×YA	UK純種	YA純種
7/22～16W	0.0%	0.0%	0.0%
7/29～17W	3.7%	0.0%	0.4%
8/5～18W	12.8%	0.0%	3.1%
8/12～19W	26.3%	0.0%	10.0%
8/19～20W	53.4%	6.3%	40.9%
8/26～21W	71.7%	16.2%	68.1%
9/2～22W	85.4%	26.5%	80.8%
9/9～23W	86.3%	41.8%	86.0%
9/16～24W	90.6%	57.2%	94.4%
9/23～25W	92.9%	72.8%	96.2%
9/30～26W	92.3%	76.4%	96.8%
10/7～27W	91.7%	78.9%	97.0%
10/14～28W	92.9%	77.3%	97.0%
10/21～29W	90.1%	74.3%	97.1%
10/28～30W	90.7%	74.5%	97.0%
11/4～31W	88.9%	74.6%	96.7%
11/11～32W	86.0%	73.1%	96.7%
11/18～33W	86.2%	72.7%	96.8%
11/25～34W	86.9%	72.3%	96.9%
12/2～35W	87.8%	72.0%	96.9%
12/9～36W	88.1%	70.8%	97.1%
12/16～37W	83.3%	69.4%	96.9%
12/23～38W	86.0%	67.9%	96.9%
12/30～39W	88.1%	68.2%	96.4%
1/6～40W	85.7%		
1/13～41W	85.4%		
1/20～42W	81.3%		
1/27～43W	84.2%		
2/3～44W	83.0%	64.8%	97.1%
2/10～45W	83.9%	64.3%	96.2%
2/17～46W	81.3%	62.6%	95.9%
2/24～47W	79.5%	61.5%	95.7%
3/2～48W	82.1%	60.0%	94.5%
3/9～49W	76.0%	61.5%	94.4%
3/16～50W	79.0%	60.3%	94.4%
3/23～51W	76.3%	59.1%	92.8%
3/30～52W	76.6%	60.4%	93.6%
4/6～53W	74.5%	59.4%	93.5%
4/13～54W	74.8%	58.6%	93.8%
4/20～55W	77.5%	57.4%	93.4%
4/27～56W	74.2%	55.9%	93.7%
5/4～57W	72.7%	54.0%	93.6%
5/11～58W	69.9%	54.5%	93.7%
5/18～59W	64.3%	51.7%	92.3%
5/25～60W	66.8%	50.0%	93.1%
6/1～61W	65.2%	50.2%	91.8%
6/8～62W	67.4%	49.6%	93.2%
6/15～63W	64.1%	48.0%	92.1%
6/22～64W	60.3%	46.0%	91.4%



※ 日齢毎の産卵率を各週齢で平均化した産卵率
 ※ 表の黄色セルは産卵ピークの週

（表9、図6）週齢毎産卵率の推移

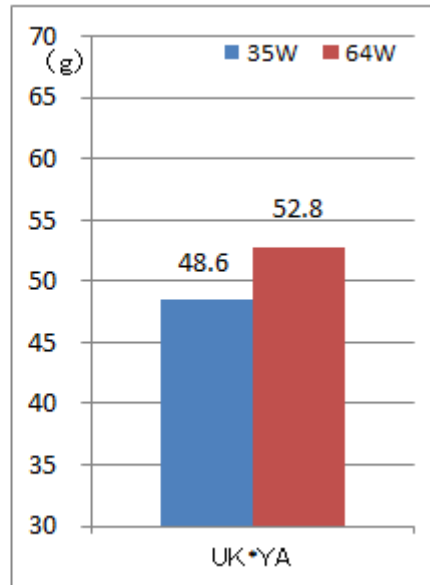
(6) 卵質性能

卵質性能は、35 週齢・64 週齢時の卵質検査において 60%抽出(30 個)として測定した。

ア 卵重 (表 10~12・図 7~9 参照)

卵重は、35 週齢では 48.6 g、検定終了時の 64 週齢では、52.8 g となった。

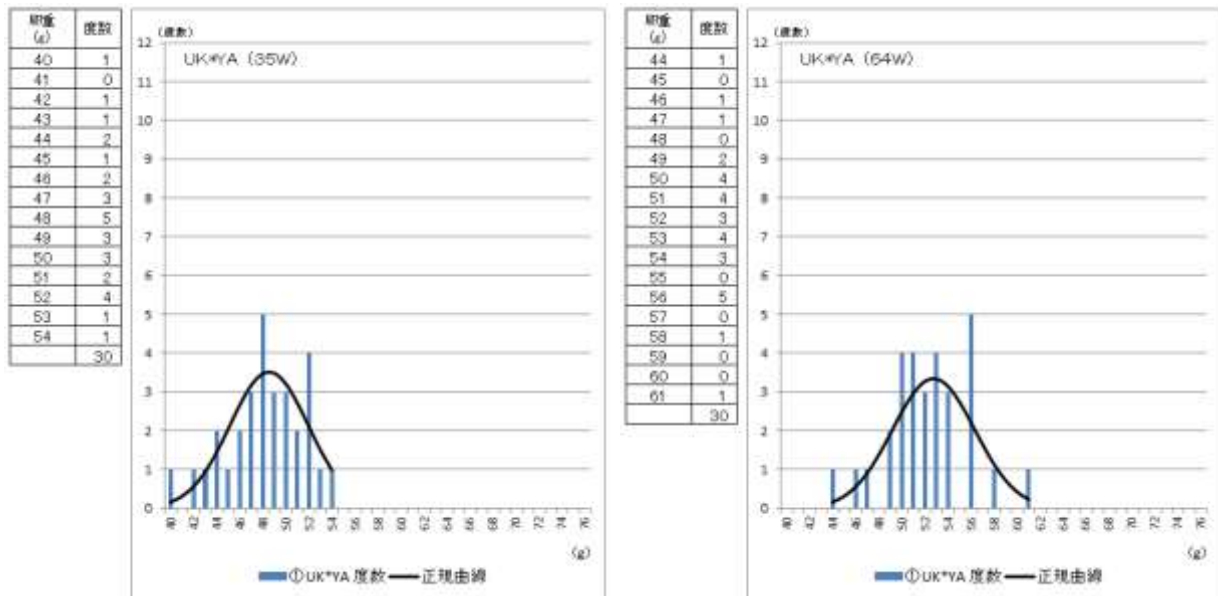
区分 (g)	UK * YA	
	35週齢	64週齢
平均	48.6	52.8
最大	54.3	61.4
最小	40.2	44.1
標準偏差	3.4	3.6
数(個)	30	30



(参考)純粋種の卵重
(H31年鶏:岡崎牧場系)
UK純粋種 YA純粋種
35週齢時: 39.3g 57.2g
64週齢時: 43.5g 57.9g

(図 10・図 7) 卵重の状況

これら全ての測定値からそれぞれ度数分布、正規曲線を求めた結果、表 11~12、図 8~9 のような分布となった。

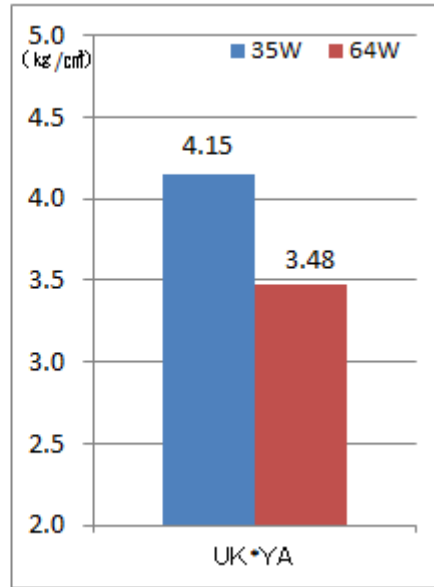


(表 11・12、図 8・9) 卵重の度数分布・正規曲線

イ 卵殻強度（表 13～15、図 10～12 参照）

卵殻強度は、35 週齢では 4.15 kg/cm²、検定終了時の 64 週齢で 3.48 kg/cm²となった。

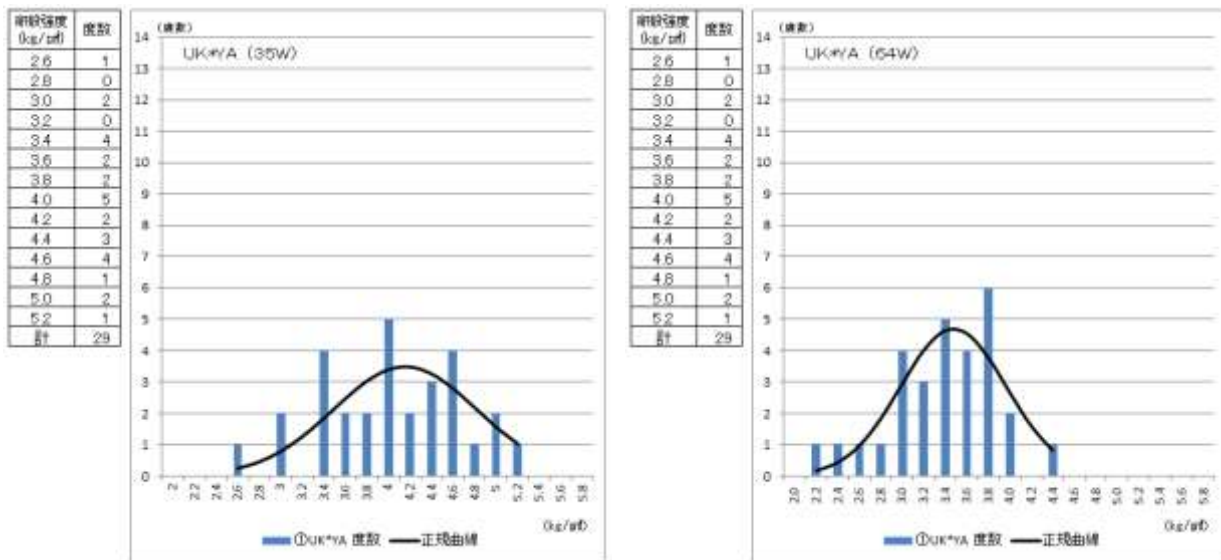
区分 (kg/cm ²)	UK * YA	
	35週齢	64週齢
平均	4.15	3.48
最大	5.39	4.40
最小	2.61	2.28
標準偏差	0.66	0.49
数 (個)	29	29



(参考)純粋種の卵殻強度
(H31年鶏:岡崎牧場系)
UK純粋種 YA純粋種
35週齢時: 4.17kg/cm² 4.13kg/cm²
64週齢時: 3.70kg/cm² 3.92kg/cm²

(表 13・図 10) 卵殻強度の状況

これら全ての測定値からそれぞれ度数分布、正規曲線を求めた結果、表 14～15、図 11～12 のような分布となった。



(表 14・15、図 11・12) 卵殻強度の度数分布・正規曲線

ウ 卵殻色（表 16、図 13～14 参照）

a 卵殻色「L 値」（※ 明るい ← 0）

色の明るさを示す L 値（数値が低いほど卵殻色が濃い）については、薄い褐色卵鶏である父系の烏骨鶏の影響を受け、全体的に卵殻色が薄く明るい数値であるが、母系のロードアイランドレッド種の影響により、UK 純粋種（74～76）より若干濃く、35 週齢及び 64 週齢の何れにおいても 66～68 程度となった。また、通常では加齢とともに卵殻色が薄くなり L 値は低くなる傾向があるが、今回はそのような傾向はみられなかった。

b 卵殻色「a 値」（※ 赤 ← 0 → 緑）

色の赤・緑を示す a 値（プラス数値が高いほど赤みが強く、マイナス数値が高いほど緑みが強い）は、薄い褐色卵鶏である父系の烏骨鶏の影響を受け、赤みが薄い傾向を示す低いプラス数値であるが、母系のロードアイランドレッド種の影響により、UK 純粋種（8～9）より若干赤みが濃く、35 週齢及び 64 週齢の何れにおいても 12～13 程度となった。また、通常では、加齢とともに赤みが薄くなり a 値は低くなる傾向があるが、L 値と同様、今回はそのような傾向はみられなかった。

c 卵殻色「b 値」（※ 黄 ← 0 → 青）

色の黄・青を示す b 値（プラス数値が高いほど黄みが強く、マイナス数値が高いほど青みが強い）は、薄い褐色卵鶏である父系の烏骨鶏の影響を受け、薄く褐色がかった卵殻色であるため、35 週齢及び 64 週齢の何れにおいても 23～24 程度の黄色みが若干低い数値であった。また、通常では、加齢とともに黄みが薄くなり b 値は低くなる傾向があるが、L 値や a 値と同様、今回はそのような傾向はみられなかった。

（表 16）卵殻色「L 値、a 値、b 値」の状況

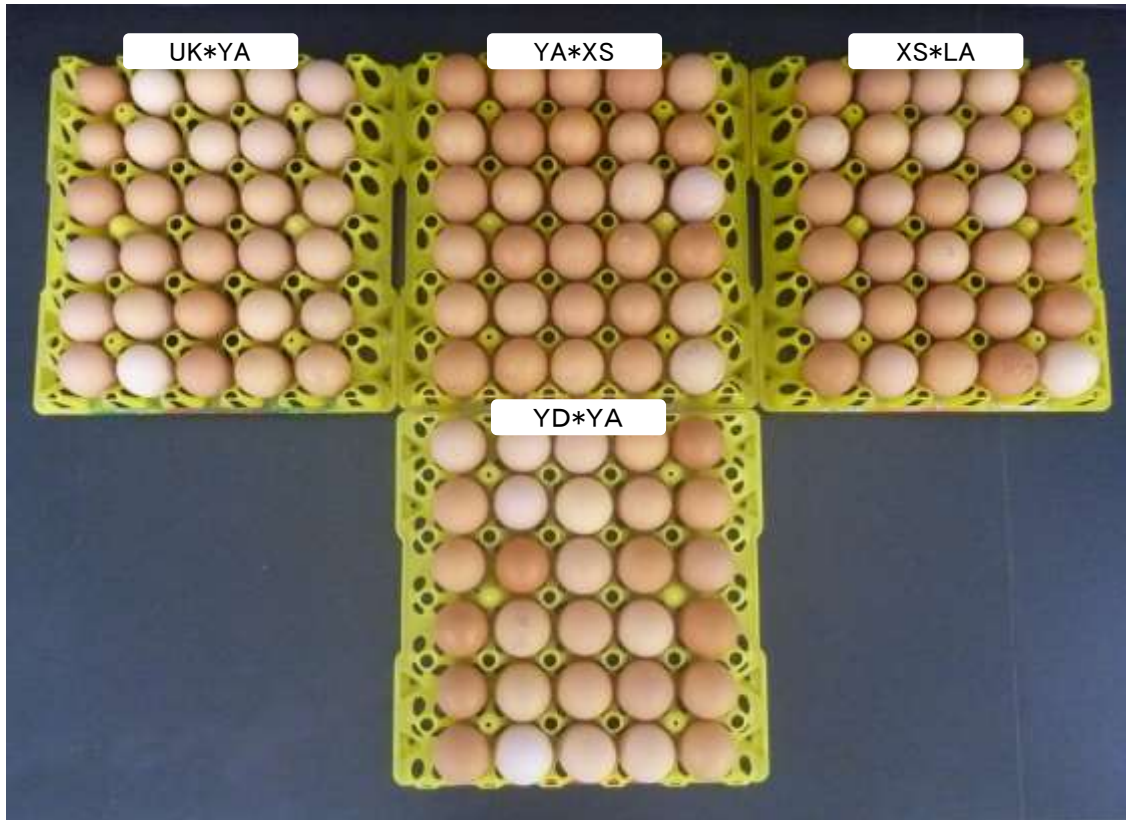
区 分	卵殻色(L値)		卵殻色(a値)		卵殻色(b値)	
	35週齢	64週齢	35週齢	64週齢	35週齢	64週齢
平 均	68.0	65.9	11.92	13.25	23.19	24.45
最 大	78.1	72.1	16.41	20.83	28.66	29.53
最 小	61.6	55.0	4.53	7.12	16.21	10.27
標準偏差	4.0	3.9	2.80	2.86	3.78	4.13
数 (個)	30	30	30	30	30	30

<参考> 純粋種の卵殻色「L 値」「a 値」「b 値」（35 週齢時、31 年鶏：岡崎牧場系）

UK： L 値： 74.1、a 値： 8.7、b 値： 21.3

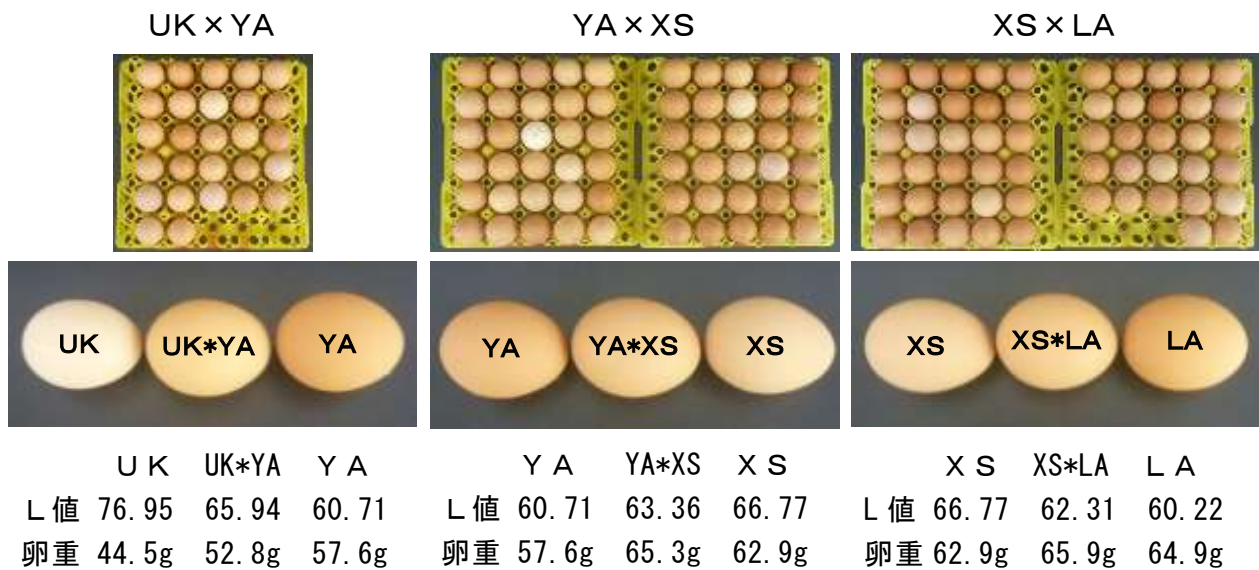
YA： L 値： 58.6、a 値： 17.9、b 値： 28.8

<参考> 卵殻色の違い (35 週齢時)



(図 13) 特殊鶏交雑の卵殻色の状況
(※ 大型鶏交雑の「YD×YA」は参考)

<参考> 卵の特徴 (64 週齢時 : 60 個抽出 (UK×YAは 30 個)) ※特殊鶏交雑のみ



※ UK×YA、XS×LAは汚卵を除いて写真を撮影。

※ 純粋種のUK・YA・XS・LAは 70~72 週齢時 : 30 個抽出。

(図 14) 特殊鶏交雑の卵の特徴